



葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第49号 2023年夏

鈴木恒彦前理事長 追悼記念号

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

2023年4月3日鈴木恒彦前理事長がご逝去されました。先生はご病気を患われてからも、最後まで病棟、外来へと足を運ばれ利用者様、我々職員一同のために力を尽くして下さいました。

そして6月3日に大阪発達総合療育センター5階ホールで、ご家族様にもお越しただいて、鈴木恒彦前理事長を偲ぶ会を行いました。来賓の皆様、センター職員を中心に多数の方にご参加いただけました。また、利用者様、ご家族からは鈴木恒彦先生への107通もの感謝の寄書をいただきました。

皆様のおかげをもちまして心に残る偲ぶ会を行うことができました。ありがとうございました。

■ご挨拶

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

船戸 正久

先日は、鈴木前理事長を偲ぶ会にご参列下さり、本当に有難うございました。敬愛します梶浦先生、児玉先生からお言葉をいただき、鈴木先生も天国で喜んで下さっていると思います。鈴木先生のご長女さま一家にも同席いただき心から嬉しく思います。偲ぶ会にご参列いただきました来賓の皆様方に心から感謝申し上げます。利用者さま・ご家族からもご逝去を悼むたくさんの感謝の寄書をいただきました。先生は、寄書にありますように、多くの障害をもたれた利用者さまやご家族、そして職員を愛して下さいました。まさに私たちのセンターの大黒柱として、梶浦名誉理事長の後を引き継いで、重責を担って下さいました。闘病中の苦しい中最後の最後まで奥さまと共にセンターに顔を出していただき、私たちに励まして下さいました。

今後先生の残して下さいました大きな遺産を職員一同協力して遂行したいと願っています。どうか皆さまも、センターや職員の今後の働きに、ご支援・ご鞭撻を下さいますようお願いいたします。本当に有難うございました。



■ご挨拶

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

川端 秀彦



本年4月3日にご逝去されてからもう4ヶ月が経とうとしていますが、先生がおられないことを未だに実感できず、今でも理事長室に入ればあの優しい顔を拝見できるような気がしてなりません。

偲ぶ会では鈴木恒彦前理事長と交流の深かった先生方の思い出の詰まったお話し、またご遺族様からは感動的なスピーチを頂戴いたしました。職員の方々も先生とのエピソードを思い浮かべながら、偲ぶ会に参加されたことと思います。その気持ちを形に残すべく、葦49号は追悼記念号として発刊されます。船戸正久理事長、梶浦一郎名誉理事長、リハビリテーション部佐藤邦洋部長、わかば病棟土井知栄子看護師長に加えて、来賓として偲ぶ会に参加くださいました児玉和夫先生、紀伊克昌先生からも玉稿をいただいています。加えて患者様のご家族様からのメッセージを載せていますが、そこからはいかに鈴木恒彦先生が多くの人たちに慕われていたかをうかがい知ることができます。

先生の脳性麻痺・ボバース法に対する熱い思いを絶やすことなく、私たちは一丸となってセンターをこれまで以上に発展させて行きたいと思っています。どうか天国から私たちに暖かく見守っててください。本当にありがとうございました。



❀ 故鈴木恒彦先生のご紹介 ❀

鈴木恒彦先生は東北大学医学部を卒業後、宮城県整肢拓桃園で20年間、脳性麻痺の療育に関わり多くを学ばれました。その間にロンドンに留学され、脳性麻痺の病態生理と臨床症状の関わりに強い関心をお持ちになりました。

その後、大阪に活動拠点を移され、平成24年に大阪発達総合療育センター センター長としてお迎えいたしました。当センターで理事、評議員を歴任され、令和2年には理事長に就任されました。そして令和3年には療育関係者の中で最高の名誉である「高木賞」を受賞されました。

先生の長年に渡るご尽力に感謝し、この功績を心に刻みたいと思います。

【経歴紹介】

- 昭和45年3月 東北大学医学部卒業
- 昭和50年3月 医学博士（東北大学）
- 4月 宮城県整肢拓桃園医長
- 9月 英国留学（期間中にロンドンボバースセンターにて脳性麻痺10週間コース受講）
- 平成4年8月 ボバース記念病院副院長
- 平成8年10月 同院院長
- 平成14年7月 大阪府立身体障害者福祉センター所長兼附属病院長
- 平成19年4月 大阪府立急性期・総合医療センター副院長
兼 障害者医療・リハビリテーションセンター長
- 平成21年9月 NTT東日本東北病院 整形外科部長・リハビリテーションセンター長
- 平成24年5月 大阪発達総合療育センター
センター長兼南大阪療育園園長
- 令和2年7月 社会福祉法人愛徳福祉会 理事長に就任
- 令和3年11月 高木賞 受賞



鈴木先生を偲ぶ言葉

名誉理事長 梶浦 一郎



鈴木恒彦先生。先生は、私
たちを置いて先に逝かれました。
人の寿命というのは、神様が
決めるとはいえ、私達は何も
できず、本当に悲しい、寂し
い、辛い想いで一杯です。先生
もこれからまだまだ仕事をし
ようと思っておられた最中に、
病気に侵され、さぞ悔しかった
だろうと思います。

鈴木先生から最初にご連絡
頂いたのは、先生が東北の肢
体不自由児施設の高橋孝文先生
のところ、副園長をして
おられたときでした。先生から
ボバースセンターへ紹介状を
書いて欲しいと言われて、
ボバース夫妻に有望な先生
だからと紹介させていただきました。
先生がロンドンのボバース
センターで、講習を受けられて、
私たちが予想していた以上に、
先生はボバーススピリット、
ボバースの考え方、神経生理
学に対する考え方に対して、
非常に共感をもたれました。
先生は大学

卒業後、神経生理学の教室で研究しておられましたので、ボバースの考え方を非常によく理解していただきました。

脳性麻痺、脳卒中の早期治療を日本に広めていくセラピストは、紀伊先生を始め、たくさんいましたけれども、医師として理論的に、指導者として先生のご活躍を期待致しました。事実、非常に理路整然として、アカデミックにボバーススピリットを理解し、みんなにわかりやすく、説明、指導していただきました。非常に多くのボバースセラピストを育てていただきました。

この先生が、こんなに早くお亡くなりになるということは、私たちの施設の非常に大きな損失であると同時に、日本におけるボバーススピリット、あるいは、脳性麻痺、脳卒中に対する、先生の考えておられましたニューロリハビリテーションの発展のために、非常に大きな損失だと思えます。

鈴木先生は病気になられてからも苦しい身体にかかわらず、病室、外来へと精力的に子どもたちのために力を尽くして頂きました。ありがとうございました。

どうぞ安らかにお休み下さい。そして、私たちを見守り下さい。

鈴木先生を偲んで (来賓を招いての偲ぶ会)

堺市立重症心身障害者(児)支援センター 名誉センター長 児玉 和夫



鈴木先生をこのように送ることになるとは思ってもいませんでした。先生は私より2つ年下でしたが、私にとっては兄のような存在で、いつも教えていただけてきました。まだまだ何年もこうした関係が続くと思っていました。本当に残念です。

先生と私の関係は40年以上前に遡ります。日本でボバース夫妻をお招きして1980年に講習会を開いていますが、先生はすでに神経発達リハビリテーションの理論的リーダーでした。すぐれた研究者であり、整形外科医であり、かつ肢体不自由児のことを常に思われていた先生は、まさに障害児リハビリテーションの世界的な権威者であり、世界各地の学会にも登場し、頼りにされていました。先生の素晴らしい点は、医師の世界での権威者にとどまらず、すべてのリハビリテーション関係のスタッフと同じ目線で話し合い、仲間になり、皆から頼られた存在になっていったということです。

先生は多くの人から頼られる存在でしたが、先生自身も行動の人でした。仙台を離れ、梶浦先生のもとに移り、ボバース記念病院を支え、大阪府立身体障害者福祉センター附属病院の管理者になって、大阪府の障害者医療とリハビリテーションの再編に取り組み、成果をあげられました。その府立のセンターがあった場所に建てられたのが、その後私がセンター長となった堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかいです。本当に奇遇です。

いま先生のご逝去で、多くの方が衝撃を受けています。ボバースの仲間も、大阪発達総合療育センターの皆さまもそうでしょう。何より先生を頼っていたたくさんの患者さんたちがショックを受けておられます。私も言葉をどう結んでよいかわかりません。それでも先生とご一緒させていただいた40数年の思い出を大事に残された日々の励みにしていきたいと思います。梶浦先生が開設された聖母整肢園は大阪発達総合療育センターとなり、法人の愛徳福祉会も含め船戸先生、川端先生以下しっかりした先生方が守り発展させておられます。梶浦先生も守っておられます。走り続けた鈴木先生、どうか少しお休みください。そして私たちを見守ってください。先生ありがとうございます。

センター職員合同の偲ぶ会

大阪発達総合療育センター顧問・シニアボバースセラピスト 紀伊 克昌



今からおおよそ50年ほど前に、宮城県整肢拓桃園で先生から質問を受けたのが最初の出会いですね。私は高橋孝文園長先生に招かれて整肢拓桃園で、講演と治療デモンストレーションを行いました。「あなたの治療は素晴らしい、しかし、子どもさんの股関節内転筋群緊張が緩んで立位保持が容易になったのは、どういった神経メカニズムが作用したのですか？」好意的に優しく、しかし、鋭い理論追及がとても印象的でした。「ロンドンで小児基礎講習会を受講して日も浅く、復習と臨床経験を重ねている若輩で、鈴木先生の質問すべてに答えられません」という返事に納得できない先生は、自ら基礎講習会受講のためにロンドンへ行かれました。

鈴木先生はロンドンで受講した際に、ロンドンボバースセンター2代目所長ジェニファー・ブライス女史の、子どもさん当人だけでなく、ご家族も受講生の皆をも笑顔にしまう治療展開に魅了されました。「患者さんから学びなさい、少しでも今より良くするようにプロとして尽くしなさい、良くなった項目をご本人とご家族と共有しなさい。そして、なぜ良くなったか当てはまる知識を積み重ねて行くのがボバース夫妻の教えです」受講後、先生は宮城県整肢拓桃園で、脳性まひのお子さんたちに診療されました。外来診察の場でセラピー操作を交えて、ご家族に当面の家庭療育も指導されました。その評判を聞き県外のご家族も鈴木先生の診察を希望される方たちが多数でした。

鈴木先生は、ボバース関係の講習会開催も熱心で、医師、看護師、教師、保育士向けなど、セラピスト以外の多職種にも教育することに尽力されました。我が国のリハビリテーション界や療育界は、“ボバース”に対しては、歓迎的であったり拒絶的であったりを繰り返してきました。すべては、臨床実践を伴わない人たちの文献による誤解に基づくものでした。鈴木先生は、こうした誤解を解くために、多くの専門誌、刊行本で丁寧に真意説明を重ねていらっしゃいます。講習会で引用文献として、鈴木先生が必ず登場されます。今でも、私たちボバースセラピストの強い味方です。

その鈴木先生が不治の病に侵され、最後の際まで復活されることを、信じて闘病されていたらっしゃいました。“ボバース”をライフワークとしてきた者のまとめ作業とともに頑張ろうと、理事長室で熱い握手を交わしたのに、先生が先に逝かれてしまわれるなど、とても信じられません。ここ大阪発達総合療育センターで、もちろん日本全国、先生からの教えと熱い思いを託された弟子たちが、臨床実践成果の輪を広げていきます。先生、長らくのご奮闘お疲れ様でした。どうぞ安らかにお休みください。





2023年4月4日午前、新入職員全体研修の講義の合間に先生の訃報を聞きました。私は溢れる涙を止めることができず、その場を離れてしまいました。つい先日、理事長室

でお話しした際、ご自身のことよりもリハビリテーション部職員のことを気にかけてくださっていました。「みんな楽しく仕事はできているか」、「しんどくなっていないか」、コロナ禍のリハビリテーション部運営、セラピストの育成や質的な向上、一人一人、目の前の子どもさんに真摯に向き合い学ぶことを教えていただきました。私たちセラピストの一番の理解者であった先生が旅立たれた現実を私は深い悲しみから未だ、受け入れられずにいます。

先生にはじめてお目にかかったのは、1997年10月、ボバース記念病院の採用試験でした。面接試験はとても緊張しましたが、丁寧な言葉かけと穏やかでやさしい笑顔がとても印象的でした。

2016年9月、再び鈴木先生の下、当センターでお仕事をさせていただくことになりました。2019年4月、私はフェニックス病棟の担当となってから、医療サービスと福祉サービスとが同居する体制の中で、方針や指導について悩みました。今まで医療の現場でしか仕事をしていなかったためか、福祉の大切さを頭では理解してもなかなか行動できずにいました。そんな中、鈴木先生の回診に同席する機会を得て、感じたことは、医療的介入から日常生活を豊かにする活動に至るまで、利用児・者への情熱と深い愛情に満ちていることでした。「ここは、凄いいんだ。本来、重心施設は福祉で成り立っていることが多いけど、ここは医療的介入もしっかりできる場なんだよ。そんな施設は他にはないよ」と言われたときに、私の悩みは吹き飛び、視野が広がったことを忘れません。

仕事に厳しく、終わりなき探求心と情熱、人に対して愛情の深い先生だったからこそ、みんなに尊敬され、慕われ続けて来られたのだと思います。そんな大きな柱を失った今も悲しみは消えぬままにありますが、先生の遺志を受け継ぎ、リハビリテーション部職員一丸となって当センターの発展に力を注いでまいります。

鈴木恒彦先生、今まで本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

大阪発達総合療育センター 2階病棟 師長 土井 知栄子

「おはよう」「感染症はどうだい?」「手術はうまくいった?」と鈴木先生は毎朝8時半に必ず病棟に来てくださり、スタッフや子ども達に声をかけてくださっていました。そして「今日は外来だからね」と言いながら病棟を去っていかれる、そんないつもの何気ない日常がなくなって早や4か月が経とうとしています。

いつもわかば病棟と入院している子ども達の事を気にしてくださっていました。特に回診では子どもの成長を楽しみにされていました。時には思いがけない手術の話がでて子どもや家族がびっくりしたこともありました。鈴木先生ご自身の病気がわかってからも、座っているだけでもつらい状況にもかかわらず、回診で子ども達や家族のために励ましの言葉をかけ、子ど

もの持つ可能性を信じることを私たちに教え続けてくださいました。

これからも鈴木先生の教えをしっかりと受け継いでいきたいと思っています。

鈴木先生、これからもわかば病棟の子ども達、家族、そしてスタッフを見守ってください。ありがとうございます。



偲ぶ会のもよう

利用者様からのメッセージ

娘のこゝを受け入れてくださったおかげで、今の娘の成長があると思います。先生に出会えて本当に良かったです。ありがとうございました。

いつも診察してもらい、一緒にこうしたほうが良いんじゃないかと教えてくださりありがとうございました。リハビリ頑張っているんで、天国から見守ってください。

息子をいつも優しく診察して頂いてありがとうございました。成長をニコニコしながら見守って頂きました。これからも息子と共に家族でしっかりと歩んでいきたいと思ひます。どうぞ安らかにお休みください。ありがとうございました。

娘が他の病院ではどうせ歩けないと言われてましたが、鈴木先生は歩けるよ、大丈夫。とニコニコ話してくれました。親にとっても子どもにとってもその一言はとても励みになり、希望になりました。治療もちろん大切ではありますが、親のメンタルや気持ちに寄り添ってくれ、とても有難かったです。本当に疲れ様でした。

長女が誕生してから10年間ずっと鈴木先生にお世話になりました。移動中、車の中で「じいじのとこ行くで」といつも言って楽しみにしていました。先生の優しいお人柄、大好きでした。

診察でお世話になり、ありがとうございました。いつも明るく優しく的確なアドバイスをしていただき、楽しくお話しして下さり毎回の診察日が楽しみでした。本当に先生と出会えて幸せでした。ありがとうございました。

最初からうちの子のことをよく見てくださり「もっと色々できる子だから」と言ってくれましたね。私の希望になりました。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

先生に作って頂いた装具、いつもいろんなアイデアが詰まっていたどこに持って行ってもびっくりされました。子どものために力を注いでくださり本当にありがとうございました。

赤ちゃんの頃から、娘の成長をたくさん褒めてくださり、たくさん喜んでくださいました。気持ちが滅入る時も鈴木先生のポジティブなお言葉にたくさん励まされてきました。「この子はすごいですよ。これからが楽しみです」と言ってくださったことは一生忘れません。お空の上から、これからも娘の成長を見守っててください。

診察の時には子どもの可能性を信じて頂き嬉しかったです。ありがとうございました。

先生が亡くなったとき、とても悲しかったです。先生に赤ちゃんの時から診てもらっていたので、僕はそれぐらい悲しかったです。



イベントピックアップ

プール開き

あさしお園の夏が始まりました!
 寄付で購入した新しいプールでの初めての夏!
 大きくなったプールで、おもいきり体を動かして楽しく遊んでいます♪



感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

(R5.4 ~ R5.6)

(R5.4 ~ R5.6)

一般寄付金

月	寄付者 (敬称略)	
4月	石川倫子	本園
	楽基金 5件	本園
5月	楽基金 2件	本園
6月	匿名	本園
	楽基金 7件 国際ソロプチミスト大阪一中央	本園

寄付物品

	寄付者 (敬称略)	物品名	
4月	橋本知汰	DVDプレーヤー	本園
	工藤なな美	プロンボード	本園
	おもちゃ図書館なかよし文庫	おもちゃ、絵本	本園
	河内悠歩	トーマスのおもちゃ	本園
5月	匿名	くつ	本園
	大倉愛桜	絵本18冊	本園
6月	匿名	タオル、おもちゃ、電池	本園
	大倉愛桜	トランポリン	本園
	匿名	おもちゃ、くつ	本園
	匿名	花火、家庭用プラネタリウム	本園
	匿名	おもちゃ	本園
	保田博	SRC歩行器	本園
	匿名	ベビーチェア	本園
SiRRi MOSTAFA	JOUET "BACK TO FUTURE"	本園	
林清乃	かぶと虫	本園	

職員研修実施状況

令和5年4月~6月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和5年4月 3日(月)・4日(火)・5日(水) 9:00~17:30	教育研修部	令和5年度新入職員研修 (兼令和4年度中途採用者研修)	船戸正久センター長 他	40名	5階ホール
令和5年4月20日(木) 17:45~19:00	教育研修部	公開講座 「どうするIRUD(未診断疾患イニシアチブ)?」	大阪公立大学医学部附属病院 ゲノム医療センター 病院教授 瀬戸俊之氏	118名	5階ホール他
令和5年5月15日(月) 17:40~19:00	教育研修部	「ノーリフティングケア研修」	堺市立重症心身障害者(児) 支援センターベルデさかい 地域支援部長 小澤明人氏 リハビリテーション部長 松本茂樹氏	136名	5階ホール他
令和5年5月25日(金) 17:40~19:00	教育研修部	虐待防止研修 「障がい児虐待について」	いぶき法律事務所 弁護士 岩佐嘉彦氏	100名	5階ホール他
令和5年6月6日(火) 17:40~18:40	感染管理委員会 教育研修部	感染管理対策研修 「標準予防策について」	看護部 主任 小崎聖子	120名	5階ホール他



大阪発達総合療育センター

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
 発行責任者・船戸正久

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
 フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
 主として重症心身障がい児者
 わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
 ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
 いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
 なでこ(生活介護事業・児童発達支援事業)
 〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
 TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134
 訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
 TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
 ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
 TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
 〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
 あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
 ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
 〒552-0004 港区夕風2-5-3
 TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524
 きらり(共同生活援助事業・短期入所事業)
 TEL:06-7501-0328 FAX:06-7501-0330
 ひなた(生活介護事業)
 TEL:06-7501-0319 FAX:06-7501-0330
 みらい(放課後等デイサービス事業)
 TEL:06-7501-0282 FAX:06-7504-0212
 〒546-0035 東住吉区山坂5-12-5